

I 実践

1 研究主題「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる生徒の育成」

(1) 主題設定の理由

本校では、「自らを高め、力のある人間となれ ー自ら学び、自らを律し、自らを鍛えるー」を教育目標とし、その目標を具現化するために、「確かな学力の育成」「健康安全・体力づくり」そして、人権教育にもつながる「思いやり教育の推進」の三つの柱が立てられている。また、教育目標達成のための重点として、六つの経営の重点が掲げられているが、その重点の一つに「一人一人の夢や、豊かな心、人権意識を育む教育の推進」とある。この経営の重点を受け、一人一人の夢や、豊かな心を育むための一歩として、まず、自分と他人を大切に思い、認めることができる生徒の育成が必要ではないかと考え、研究主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ① 全校参加の人権教育の取組
- ② 道徳の時間を通しての人権意識高揚

2 実践内容

(1) 全校参加の人権教育の取組

① いじめ防止フォーラムの実施

互いを尊重し、思いやりのある行動がとれる態度を育てること、そして、「いじめ」について一人一人が考えることをねらいとし、12月に「いじめ防止フォーラム」を行った。今年度は、「いじめの起きているケースにおいて、あなたならどう行動するか？」を、生徒会作成による全国と本校の調査比較を交えたプレゼンテーションを見ながら考えた。自分がその相手の立場に立って考えることで、さらに人権意識を高めることができた。また、各学年の代表生徒による「いじめは絶対に許さない」という内容での作文朗読発表も行った。



〈いじめ防止フォーラムの様子〉

【丘中宣言】

- 1 いじめは絶対に許さないという雰囲気を作ります。
- 2 いじめを見て見ぬふりをしないという強い意志を持ちます。
- 3 痛みの感じ方は人により目盛りが違うという意志を持ち、自分中心の考え方を改めます。
- 4 人はみんな平等で、一人一人が大切な存在だと感じる心を持ちます。

この「いじめ防止フォーラム」を受けて、さらに人権に対する意識を高めていきたいと考え、図書委員会で1月から3月に実施予定である朗読会に、人権に関する作品を取り入れ、人権について考える機会を増やす予定である。



〈朗読会の練習風景〉

② いじめ撲滅標語

一人一人がいじめについて考える時間を持つことが大切と考え、生徒会がいじめ撲滅のための標語を募集した。各学級で、いじめをなくすためには、どうすればよいか話し合った後、それぞれの考えを標語に表した。その中から、心に響いたものを選出し、「いじめ防止フォーラム」で表彰を行った。

《いじめ撲滅標語大賞作品》

- 携帯の うすい画面に あつい闇
- 思いやろう 相手の心に 寄り添って
- 死ねばいい その一文が 重い罪

(2) 道徳の時間を通しての人権の意識高揚

① 全校共通の人権題材を使用した取組

教育目標にも掲げられている「命の大切さ」を考えるために、「スクープ写真」「生きるつとめ」を題材にして、全学年で道徳の授業を行った。どちらの題材も、自分の一時的な感情で、衝動的に行動してしまったことにより、命を落としてしまったり、今までの丈夫な体をもつ自分ではなくなってしまったりする内容である。しかし、起こってしまった出来事から「命」は、当たり前にあるものではなく、大切なものだと思ふことができる作品である。その作品にふれることで、自分がかげがえのない存在であることや自他の生命の重さについて考えるよい機会となった。

【生徒の感想】

- ・今日の授業で、命とは一番大事なものだと思えてわかりました。何気ない毎日がキセキなんだと思いました。
- ・一つの自分勝手な行動で、大勢の人々の命がなくなってしまうとすごくこわくなります。人の言うことを素直に聞く「判断力」も大切だと思いました。命は、大切にしなければいけないことを改めて感じました。
- ・「命は簡単にならない」じゃなくて、「命は簡単になるものだ」と分かりました。これから大切にしたいと思

② 学年での取組

ア 「いじめ」の原因について

自分の気持ちを、「楽しい・嬉しい」などのプラスの気持ちと「嫌だな・いらいらする」などのマイナスの気持ちで表してみると、誰もマイナスの気持ちを持っていることに気付く。そのマイナスの気持ちを発散する方法の一つに、他人にストレスをぶつけてしまうことがあるということを認識することができた。その人にぶつけてしまう行動が、一対一ではなく、一対大勢になった時、いじめにつながってしまうことに気付くことができた。

【生徒の感想】

- ・自分の気持ちを人にぶつけてしまっていることがあるなあと思ひました。
- ・いじめが何で起こるのかについて考えることができました。これからそういうところを見たら声をかけられるようになりたいと思ひました。
- ・これから人にぶつけないようにしようと思ひました。

イ 「道徳の一言プリント」について

道徳の授業の最後に授業で感じたこと、これからどうしていきたいかなどを書かせている。「気のきかぬ人」の授業では、相手の気持ちをよく考えることや周りを見て行動できるようになりたいと考えた生徒がたくさんいた。そのことを行動に移せるように教室に掲示した各自の一言プリントに担任が励ましの助言を書き入れた。



〈教室掲示の道徳の一言〉

3 成果

「いじめ防止フォーラムの実施」や「いじめ撲滅標語の作成」から、一人一人が「いじめ」について向き合い、いじめをさせないために自分たちがどう行動したらよいかを真剣に考え、「人はみんな平等で、一人一人が大切な存在だと感じる心を持ちます。」という新たな宣言を採択することができた。「全校・学級道徳」でも、命の大切さや相手を思いやる大切さを学ぶとともに自分の良さを確認することで、自己肯定感を得ることができた。

II 今後の課題

「いじめ防止フォーラム」や「道徳の時間」を通して、人権に対する意識を高めることができた。今後はその意識を持ち続けながら、自分の生活で実践できるかが課題となってくる。その課題を解決していくためには、生徒一人一人が人権について考え、向き合える機会を継続して取り入れ、それを行動に移せる環境を作ることが大切である。今後も、生徒中心の活動を考えていくとともに、教師間でも人権教育に対する意識を高められるよう研修をし、日々の生活の中で指導を行っていきけるようにしたい。

III 人権コーナーの設置

人権コーナーとして「心と命の教育」を作成した。人権に関するメッセージやいじめ防止フォーラムで採択された「丘中宣言」、「いじめ撲滅標語」などを掲示することで、継続して意識させるようにしている。今後も、生徒の人権意識を啓発するような掲示をしていきたい。



〈人権コーナーの様子〉